

太平洋の楽園でゴミ問題

和歌山企業のバイオガスシステムに期待

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において株式会社ヴァイオス(和歌山県和歌山市、吉村英樹代表取締役)が提案する「島嶼部における小型メタン発酵技術を活用した包括的有機資源循環システム導入の案件化調査」(パラオ)を採択しました。

太平洋の島国であるパラオは世界的な観光地として知られていますが、増え続ける廃棄物の処理が大きな課題となっています。廃棄物埋立処分場はほぼ満杯となっており、既存の下水処理施設には余剰汚泥の最終処理機能がなく海洋環境への影響も懸念されています。

ヴァイオスは日本でも数少ない民設民営のし尿処理施設として、廃棄物処理のノウハウを蓄積し、メタン発酵技術を用いた小型のバイオガスシステムを開発しました。20 フィートコンテナに発酵槽とバイオガス共有および発電システムを搭載しており、そのまま海外輸送も可能な点が特徴で、狭い用地でも容易に設置できることがパラオのニーズに合致しました。同社の計画では、パラオに同社のシステムが導入されれば、最終埋め立て処分場の生ごみの約36%を再資源化し、エネルギーに転換できると想定されています。今回の調査では、現地へのシステム設置とビジネス展開をめざした調査を行います。



バイオガスシステム



パラオの埋め立て処分場

なお、本調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」(注)として実施され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

(注) 案件化調査は、2012年度から実施されており、今回は全国で36件が採択。

参考:(プレスリリース)案件化調査2017年度第1回公示の採択結果について

https://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/ku57pq00001yndld-att/investigation_170308_result.pdf

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 企業連携課 担当 小西

TEL 078-261-0397 e-mail: Konishi.Yoko.2@jica.go.jp